

グローバル・アピール 2009
 ハンセン病に対する
 スティグマ (社会的烙印) と差別をなくすために

GLOBAL APPEAL 2009

ハンセン病は、人類の歴史とともに存在してきた病気です。
 この病気は、身体に障害をもたらすことから、人々に恐れられてきました。
 効果的な治療法がないまま、患者たちは社会から排斥されてきました。
 今は治療薬が存在し、必要な人はだれでも無料で手にいれることができます。
 早期に発見され適切な治療を受ければ、痕跡も残さず治癒します。
 しかし、病気についての誤った認識は根深く存在しています。
 誤った認識が社会的・経済的差別を永続させるのです。
 差別は感情的、心理的な苦しみをもたらします。
 長い年月にわたって存在してきたスティグマを克服するには、治療薬だけでは十分ではありません。
 社会が癒しをもたらさねばなりません。
 ハンセン病患者・回復者、そしてその家族には、普通の生活を送る権利があります。
 病気を理由に人がもつ基本的な権利を否定することは決して許されないのです。
 この社会に存在する、ハンセン病に対するいわれのない恐れ、偏見、社会的差別をなくすために、ともに歩みましょう。
 今日が、その歩みの始まりとなるのです。



Amal A. Al-Hakim

イラク・イスラーム
 最高評議会副議長
 アマル・A・アルハキム



Ilia Altschuler

ロシア正教会大主教
 イストリンスキー・
 アルセニー



Shri. Sitaram Seba

シュリ・シタラム・
 セバ・トラスト
 モラリ・バプジ



Bhabendra Nath Saikia

パチカン保健従事者
 協議会議長
 ハビエル・ロザノ・
 パラガン



Dalai Lama XIV

ダライ・ラマ 14 世



John Robert Hall

ウエストミンスター寺院
 首席司祭
 ジョン・ロバート・
 ホール



Hassan bin Talal

世界宗教者平和会議名誉
 会長
 ハッサン・ビン・タラール・
 ヨルダン・ハシェミット
 王国王子



Samuel Kibira

世界教会協議会事務総長
 サミュエル・コピア



Rev. Dr. Stavros Kyriacos

欧州医療礼拝所ネットワーク
 代表/コンスタンディヌー
 ポリ総主教庁
 スタボロス・コフィナス



Ryuzo Matsuoka

全日本仏教会会長
 松長 有慶



Yona Megger

イスラエル主席ラビ
 ヨナ・メッガー



Marcellino D'Amico

マニラ大司教
 ガウデンシオ・ボルボン・
 ロサレス



Beatrice Schultes

先住民祖先霊評議会会長
 ビートリッツ・シュルテス



K.H. Sahal Mahfid

インドネシア・イスラーム
 伝道師評議会議長
 K. H. サハル・マフズ



Tep Pohn

カンボジア王国大導師
 テップ・ポーン



Gregorios Theodorou

テアテイラ・英国大司教
 グレゴリオス・テオカロス



Desmond Tutu

南アフリカ聖公会
 ケープ・タウン大主教
 デズモンド・ツツ



Ryohji Hasegawa

日本財団会長/WHO
 ハンセン病制圧特別大使
 笹川 陽平